

第33回刈谷市障害者自立支援協議会議事録

日 時 平成30年10月31日（水）午後3時30分～午後5時

場 所 刈谷市役所 1階 101会議室

委 員（敬称略）

<出席者>

愛知教育大学	都 築 繁 幸
医療法人成精会	垣 田 泰 宏
社会福祉法人 ひかりの家 （子ども部会長）	大 南 友 幸
社会福祉法人 観寿々会	堤 勝 彦
NPO法人パンドラの会	岡 部 扶美子
NPO法人くるくる	中 井 啓 介
刈谷市障害者支援センター	相 澤 道 子
刈谷市社会福祉協議会	神 谷 典 利
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	藤 井 孝
刈谷地域精神障害者家族会	長谷川 宏
刈谷地区心身障害児者を守る会	鈴 木 小 枝
刈谷商工会議所	河 内 利 夫
刈谷児童相談センター	河 合 清 香
衣浦東部保健所	橋 本 靖
刈谷公共職業安定所	櫻 井 茂 文
愛知県立安城特別支援学校	都 築 正 徳
刈谷市立刈谷特別支援学校	神 谷 建 喜

<欠席者>

刈谷市身体障害者福祉協会	平 野 健 司
刈谷手をつなぐ育成会	篠 原 真由美
刈谷市教育委員会	木 野 昌 孝

（部会長）

就労支援部会長	坂 口 伊久磨
相談支援部会長	伊 澤 紀 明

(事務局)

福祉健康部 部長	鈴木 克幸
福祉総務課 課長	村口 文希
〃 課長補佐	山岡 達也
〃 普及支援係長	近藤 誠二
〃 主任主査	北川 尚典
〃 主事	岩原 宏樹
刈谷市基幹相談支援センター	関 美智子

開会

資料の確認

- ・ 次第
- ・ 資料 1 刈谷市障害者自立支援協議会 各部会スケジュール
- ・ 資料 1-① 地域生活支援拠点等検討部会中間報告について
- ・ 資料 1-①-ア 刈谷市地域生活支援拠点等にかかるアンケート集計結果
- ・ 資料 1-② 就労支援部会中間報告について
- ・ 資料 1-③ 相談支援部会中間報告について
- ・ 資料 1-④ 子ども部会中間報告について
- ・ 資料 2 平成 30 年度刈谷市障害者自立支援協議会 部会員名簿

1 都築会長あいさつ

2 議題

(1) 各部会の中間報告について

事務局 資料 1 により、各部会の目的及び開催状況、今後の予定について説明

ア 地域生活支援拠点等検討部会

部会長 資料 1-①「就労支援部会中間報告について」及び資料 1-①-ア「刈谷市地域生活支援拠点等にかかるアンケート集計結果」により説明。

会 長 大変貴重なデータとして、資料の1-①-Aがあります。

10ページ以降を見ていただきますと、今後、我々がこういったことをベースに議論をしていかなければいけないと思います。機能が1から6まであり、最後に欄外に書いてあることが、施策に反映していく必要があるものだと思います。

委 員 それぞれの機能について出してあるということですが、面的整備の拠点ということなので、それぞれの機能をつなぐ連携の情報網の視点が必要になると思いますが、そのあたりはどのように考えますか。

部 会 長 刈谷市内で困ったケースがあった場合に、各事業所や相談の窓口、福祉総務課に来ることがあり、各相談支援事業所などと福祉総務課さんが連携をし、それぞれがそれぞれの機能や力量で個別に動いて対応をしていました。

それを連携していくというのが面的に整備するということですが。

5つの機能が挙げられている中で、既にやっていたものもあるが、それぞれの足りない部分などもあります。

例えば、土日や夜間の相談窓口などは足りていませんでした。それをどのように足していくかということ、これから検討していくことが必要だと思います。

委 員 面的整備型の中で地域の体制づくりという中にコーディネーターというものがありますが、個々人の何が足りないかを把握して、支援などを紹介するような考えですか。

コーディネーターはどのような役割ですか。

部 会 長 個人個人の相談については相談支援事業所で行うのですが、拠点で言うコーディネーターは全体を見ていくことです。地域のサービスをコーディネートすることを想定しています。

委 員 介護で言うところのケアマネージャーの役割は相談支援事業所でやるということですか。

部会長　　そうです。

委員　　資料1－①－アの3ページ、医療的ケアの要否の人数は重複が含まれますか。
含まれると実際の人数は62人より少なくなりますよね。

部会長　　アンケートの取り方は一人1枚なので、重複はしていないと思います。

委員　　身体、知的の方の医療的ケアと精神疾患の方の医療的ケアの考え方は少し違うかもしれませんね。

委員　　知的障害の子が私の事業所にいるのですが、本人たちは家族と一緒に暮らしたいとの意向をもっています。

その子たちの気持ちをどのように汲んでいくのが重要だと思います。

家族で暮らしながら、親が高齢になった時にちょっと支えてくれる人たちをたくさん作っておいて欲しいと思います。

人を育てていくには莫大なお金がかかります。一つの事業所だけでは難しいと感じます。

会長　　面的整備型の拠点の整備の中で委員の言ったことを検討する必要があると思います。

委員　　今でも支援については各事業所でやってくれていると思いますが、今後、拠点の整備の中で人材の育成や連携をやっていきます。

障害の部分においては意思決定支援と言うことで、本人の意思を尊重することが重視されていく部分だと思います。

イ 就労支援部会

部会長　　資料1－②「就労支援部会中間報告について」により説明。

会 長 　　今後は紙媒体以外でもPRもできるようになると良いですね。

委 員 　　セミナーの結果で何人くらいの就労につながったかを把握されていますか。

　　3月の協議会で報告してもらえるとわかりやすいと思います。

　　わかる範囲で結構ですが、その中で継続に至らなかった人数などもあると良いと思います。

部 会 長 　　部会の中では数値目標を示そうということも話し合われましたが、今回は見送りました。

　　井上技研さんも含めて5名の方が就職につながったことはあります。就職には至らなかったが、見学には行ったなど、具体的に次回の協議会で報告したいと思います。

ウ 相談支援部会

部 会 長 　　資料1－③により「相談支援部会」中間報告について説明。

委 員 　　部会以外に事例検討研修会をされていると思いますが、何回くらい開催されていますか。

　　また、その中での事例で出てきた課題などは、どのように反映されていますか。もしくは、研修会で出た課題などは挙がらないのですか。

事 務 局 　　事例検討研修会が以前は部会だったのですが、今は連絡会の形になったので、具体的にどのように課題等を挙げていくかということが話になりました。

　　各事業所から挙がってくる報告書の事例検討研修会を、本当は年に6回だったのですが、今年は1回なくなりましたので、年5回の計画でやっています。

　　部会で挙がってきた地域課題と研修会で挙がってきた地域課題は資料1－③の4ページに含めて報告させていただきました。

これらの地域課題については、次回の相談支援部会の中で具体的にどう解決していけるのかということを経験の課題として検討することを事務局としては考えています。

委員 相談支援部会では、セミナーなどのような目に見える事業を行っているわけではありません。しかし、各事業所等が相談の中で聞いている利用者や家族の相談事、将来の不安などから、どういった制度やサービスが必要なのかなど、相談支援部会がいろいろなことにつながっていく軸になるものだと思いますので、そのあたりの課題等が反映されているかを確認させていただきました。

会長 相談支援部会の多方面の活動の報告方法については、事務局と後で相談していきたいと思います。

資料1-③の4ページには大切なことが書いてあると思います。これらがそれぞれの事例から課題として出てきたということで、自立支援協議会では事例を中心にみんなで解決の方法を考えていくというのも一つの大きなミッションです。事例を置いておいて地域課題を抽象的に挙げていくのも一つの考え方ですが、事例を基に各部会で検討するなり、個に即したある一人の子を例にみんなで議論するというのも一つの方法ですし、いろいろな方法があります。

相談支援部会と事例検討研修会は積極的に活動されていますので、その活動の良さをプレゼンできる方法を考えていこうと思います。

それにしても、4ページの内容については、非常に重たい内容ですね。解決すべき地域の課題として。

簡単に書いてあるように見えますが、1つ1つ検討するだけでも1日かかるような内容で、これらをどういう施策に落とし込んでいくのか、各部会で拾い上げていくのか。それこそ、解決方法を計画の中に入れていこうような内容ですし、すごい内容が1枚にまとめられていて、本当であればもっと話を聞きたいと思うような資料です。

地域生活支援拠点等検討部会でも、これらの課題を入れて検討をしてもらいたいです。是非、有効に活用していただきたいと思います。

エ 子ども部会

委員 資料1-④「子ども部会中間報告について」により説明。

会長 子育て支援セミナーの広報については、是非、多面的にやっていただきたい
と思います。

障害者計画策定の会議のなかでピアカウンセリングの話が出ましたが、セミナーの中で先輩保護者の話を聞くというのは一種のピアカウンセリングで、このような機会の中でお互いに学び取っていくという点では大事な機会です。

特に小学校、中学校の通常の学級でも特別に配慮を必要とする方がたくさん入っておられて、その保護者に対しての情報提供をもっとやっていかなければいけないと考えると、こういった機会を積極的に活用していただきたい
と思います。

保護者はいろいろな意見を聞いて学んでいく必要があると思います。学校なら学校の意見でやっていくのではなくて、保護者が考え方を選択できるという状況を作らなければ障害理解は進んでいかないと思います。

全体を通した質問等

委員 「わたし手帳」については、相談支援部会で作成されたものですが、今は子どもの関係で配ることが増えてきているので、今後は子ども部会で内容を精査、修正してもよろしいですか。

事務局 「わたし手帳」については子ども部会で検討していただければと思います。

委員 相談支援部会の資料の4ページについて、課題がたくさん出ているのですが、これをどのように対応される予定ですか。その報告などはあるのですか。

会長 自立支援協議会では、各部会での内容を共有することが目的ですので、今日

のところは、このような課題が出ましたということです。

しかし、ただ課題を抽出しただけではいけないというのは皆様が認識されていると思いますが、例えば課題の中で、「刈谷市内に生活の場としてのグループホームが足りない」と言うものを解決するだけでも2年、3年必死でやらなければ解決できない事だと思います。

「福祉職員の人手不足」なんて、刈谷市は他市に比べればまだ良い方だと思うのですが、それでもこのような課題が出てしまうということで、どのように次の手を打っていくかということです。

やれる内容とやれない内容をどのようにすみ分けて解決していくかということも考えなければいけません。

大変なことだと思います。

これをベースに各部会でやれることを拾って、部会の中に反映させていきなり、他の協議会等についてもこういったもの基本に反映させていくということになると思います。

事務局 あいさつ

会長 では、最後に事務局の方で何かありますか。

事務局 相談支援部会の相談支援事業所「ひこうきぐも」が部会員を辞任されたため、部会員が減員したことを報告いたします。

次に、次回の自立支援協議会については、3月15日（金）の午後1時30分から開催の予定です。また、後日、開催通知を送付いたします。

会長 以上を持って、第33回自立支援協議会を閉会します。